

教育学部教育学科 初等教育コース 小学校一種

中学校一種・高等学校一種(数学)

【教員養成の理念】

教育学部教育学科の教員養成の理念は、仏教精神に則り、慈しみの心をもって他者に接することのできる、子どもの「育ち」によりそう教育者・保育者を育成することにある。教育学部のディプロマ・ポリシーでは、子どもとのかかわりを通して人間関係構築能力を育成しコミュニケーション能力育成を図ること、また教育問題を中心とするさまざまな社会問題を積極的に考察することを通してよりよい社会を形成し、幅広く人文・社会科学の知識を修得することを通して、本学の特徴である宗教的情操をそなえた小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭・幼稚園教諭・保育士を育成し、生きることの喜びと他者を思いやる心をもった子どもを育てることを重視している。

第三代学長佐々木は「教育は常に宗教を俟つて真実の人格を作る」と述べたが、これは、学校や教室での直接的な宗教教育を意味するのではない。宗教的情操をそなえた教員の言葉や立ち居振る舞いは、自ずと生徒の心の成長に静かで深い影響を与える。大谷大学では、こうした教育のあり方を「こころを育てる教育」として大切にしてきた。「教育学部教育学科」では教育・心理学科の実績を踏まえ、＜初等教育コース＞と＜幼児教育コース＞を設け、教員養成の構想を実現する。

【学科として養成したい教員像（小学校教諭）】

小学校教員に必要な教職や教科に関する科目を履修するほかに、本学がめざす教員養成の理念を実現するために関連のある教職科目として教育学系科目や心理学系科目、人権系科目を配置する。

すなわち、①人権に関する関連科目を1年次より配置し、2年次後期の本学独自科目「仏教と教育」や3年次の「教育人間学」につなぎ、慈しみの心に基づく宗教的情操を培う。また、教育学系科目により、②2年次以降、学生が理数系に関心を示すように段階的にカリキュラムを構築して理数系教育の充実を図り、③特別支援教育に関する科目を1年次後期・2年次前期・3年次前期・4年次後期に配置し体系的な履修によりインクルーシブ教育システムに対応できるように配慮する。さらに心理学系科目により、④子どもの発達に対する理解を深め、子どもを理解する資質を鍛え、学校ボランティアや地域連携に関する参加型科目で他者と協働する力を育むことをめざしている。

これらの科目を履修することを通して、本学の目標である①優しくかつ頼りがいのある人間性豊かな教員、②時代の変化に柔軟に対応し、高度な教育技術を有する資質の高い教員、③教育活動を通して社会貢献し、より良い地域社会・国家・国際社会を形成する教員が養成される。

・目標とする教員像

① 子どもの育ちに寄り添う、優しくかつ頼りがいがある人間性豊かな教員

仏教精神・宗教的情操の育成を通して、人間としての基礎力を育成し、どのような状況でも子どもと心から向き合える芯の強い小学校教員を養成する。

② 時代の変化に柔軟に対応し、高度な教育技術を有する資質の高い教員

小学校で子どもと向き合い、しっかりと教育活動を行える小学校教員を養成する。

③ 教育活動を通して社会貢献し、より良い地域社会・国家・国際社会を形成する教員

自らの学校に通う児童を育成することはもちろん、教育活動を通して社会全体を向上させ、仏教精神を社会全体に普及させる小学校教員を育成する。

【学科として養成したい教員像（中学校・高等学校教諭）】

本学科では、豊かな人間性と高度な専門性を有した教員の養成を目指している。そのためには、小学校・中学校・高等学校の教員として求められる、教育の基礎的理解に関する科目や教科の専門科目を履修することに加えて、本学がめざす教員養成の理念を実現するため、関連科目として教育学系科目や心理学系科目、人権系科目を配置する。

初年次には、「代数学概論」や「解析学概論」など教科専門科目の導入となる概論科目とともに、複合科目の「数学教育総論」を配置することで、教科に関する学びの基礎を固めながら、数学を教えることの意義や学びの楽しさを伝える力を養い、人権系科目の履修を通して多様な背景を持つ人々に寄り添う心を育てる。2年次以降は、年次進行にあわせて、「コンピュータ概論」、「確率・統計学概論」および概論科目に続く「代数学Ⅰ、Ⅱ」や「プログラミング」、「データの活用と分析」など教科の専門性を高めるための科目を体系的に配置し、数学への理解を深めるとともに、指導法科目により理論と実践を繋ぎながら、確かな指導力を身に付ける。また、本学独自の科目「仏教と教育」や教育学系科目、心理学系科目の履修を通して、宗教的情操をそなえ、子どもの心の発達や求められる支援のあり方を理解し、現代のさまざまな教育課題に対応する教員に必要な資質や能力を育成する。なお、教科専門科目においては、初年次の進度にあわせた丁寧な指導に加えて、講義と演習を織り交ぜながら着実に教科の専門性を高める工夫を行う。

これらの科目を履修することを通して、本学の目標である①優しくかつ頼りがいのある人間性豊かな教員、②時代の変化に柔軟に対応し、高度な教育技術を有する資質の高い教員、③教育活動を通して社会貢献し、より良い地域社会・国家・国際社会を形成する教員が養成される。

・目標とする教員像

① 子どもの育ちに寄り添う、優しくかつ頼りがいがある人間性豊かな教員

仏教精神・宗教的情操の育成を通して、人間としての基礎力を育成し、どのような状況でも子どもと心から向き合える芯の強い教員を養成する。

② 時代の変化に柔軟に対応し、高度な教育技術を有する資質の高い教員

各教科の高度な専門性を有し、学校現場で子どもと向き合い、しっかりと教育活動を行える教員を養成する。

③ 教育活動を通して社会貢献し、より良い地域社会・国家・国際社会を形成する教員

自らの学校に通う児童を育成することはもちろん、教育活動を通して社会全体を向上させ、仏教精神を社会全体に普及させる小学校教員を育成する。

特に、中学校・高等学校（数学科）の教員養成においては、小学校算数科から中学校数学科への移行において、児童・生徒が抱える中1ギャップと呼ばれる学習上の大きな障害を取り除く教育も重要である。具体的かつ帰納的な思考が中心であった算数科の学びから、抽象的かつ演繹的な思考が中心となる数学科の学びへの移行で戸惑う生徒に対峙した時、単に知識を伝達する表面的な指導に終始するのではなく、「なぜ」「どうして」という「深い学び」を促す教育を実践することが出来る教員を養成する。